

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年6月27日

【事業年度】 第67期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 三井住建道路株式会社

【英訳名】 SUMIKEN MITSUI ROAD CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 澤 誠之助

【本店の所在の場所】 東京都新宿区余丁町13番27号

【電話番号】 03(3357)9081(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 井本 正敏

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区余丁町13番27号

【電話番号】 03(3357)9081(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 井本 正敏

【縦覧に供する場所】 三井住建道路株式会社 中部支店
(名古屋市中区千代田一丁目16番6号)

三井住建道路株式会社 関西支店
(大阪市西区江戸堀一丁目22番4号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月		平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高	(百万円)	28,303	28,507	31,551	32,861	36,422
経常利益	(百万円)	987	633	703	1,065	1,434
当期純利益	(百万円)	556	287	322	547	754
包括利益	(百万円)		286	371	561	769
純資産額	(百万円)	4,227	4,476	4,810	5,362	5,949
総資産額	(百万円)	19,944	18,908	22,357	22,749	25,432
1株当たり純資産額	(円)	227.87	241.30	259.31	286.97	317.84
1株当たり当期純利益金額	(円)	29.99	15.49	17.40	29.53	40.70
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	21.2	23.7	21.5	23.4	23.2
自己資本利益率	(%)	14.0	6.6	7.0	10.8	13.5
株価収益率	(倍)	3.1	9.0	10.7	6.6	5.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	611	990	2,174	913	1,568
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	217	228	53	322	631
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	48	52	49	53	56
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	3,947	2,675	4,747	5,285	6,165
従業員数 〔外、平均臨時雇用人員〕	(名)	390 〔58〕	404 〔56〕	402 〔60〕	431 〔64〕	436 〔71〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高 (百万円)	28,040	28,238	31,376	31,900	35,406
経常利益 (百万円)	986	640	709	1,020	1,374
当期純利益 (百万円)	560	293	328	531	731
資本金 (百万円)	1,329	1,329	1,329	1,329	1,329
発行済株式総数 (株)	18,555,000	18,555,000	18,555,000	18,555,000	18,555,000
純資産額 (百万円)	4,201	4,456	4,795	5,292	5,986
総資産額 (百万円)	19,893	18,850	22,317	22,490	25,001
1株当たり純資産額 (円)	226.49	240.23	258.53	285.34	322.76
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	2 ()	2 ()	2 ()	2 ()	3 ()
1株当たり当期純利益金額 (円)	30.22	15.80	17.69	28.67	39.43
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	21.1	23.6	21.5	23.5	23.9
自己資本利益率 (%)	14.2	6.8	7.1	10.5	13.0
株価収益率 (倍)	3.1	8.9	10.6	6.8	5.5
配当性向 (%)	6.6	12.7	11.3	7.0	7.6
従業員数 〔外、平均臨時雇用人員〕 (名)	366 〔58〕	389 〔56〕	388 〔60〕	398 〔64〕	397 〔71〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【沿革】

昭和23年2月	岡本興業株式会社として設立
昭和26年3月	建設業法による北海道知事登録(イ)第3047号、以後2年ごとに更新登録
昭和36年2月	建設業法による建設大臣登録(ト)第4133号、以後2年ごとに更新登録
昭和40年12月	北海道道路株式会社に改称
昭和46年12月	三井道路株式会社に商号変更(北海道道路株式会社を存続会社として、三建道路株式会社、岡田舗装株式会社、2:1:1の比率にて3社合併)
昭和46年12月	北海道支社、東京支社、仙台支店、埼玉支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店及び福岡支店を開設
昭和47年1月	三道工業株式会社設立(現・連結子会社)
昭和48年7月	建設業法改正による建設大臣許可(特 48)第1330号、以後3年ごとに更新
昭和49年6月	宅地建物取引業免許、東京都知事免許(1)第27826号、以後3年ごとに更新
昭和63年12月	決算期を9月から3月に変更
平成2年9月	定款を変更し、事業の目的に産業廃棄物の処理に関する事業を追加
平成4年12月	建設大臣許可(特 4)第1330号により建築工事業を追加
平成8年2月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成10年1月	エムアール工業株式会社設立
平成14年6月	建設業法による国土交通大臣許可(特 14)第1330号、以後5年ごとに更新
平成15年10月	住建道路株式会社と合併し三井住建道路株式会社に商号変更 合併により株式会社小河原組を関係会社として承継
平成18年3月	株式会社小河原組の株式を譲渡したことにより、同社を連結の範囲から除外
平成23年3月	エムアール工業株式会社解散
平成24年4月	雁部建設株式会社の株式取得(現・連結子会社)

3 【事業の内容】

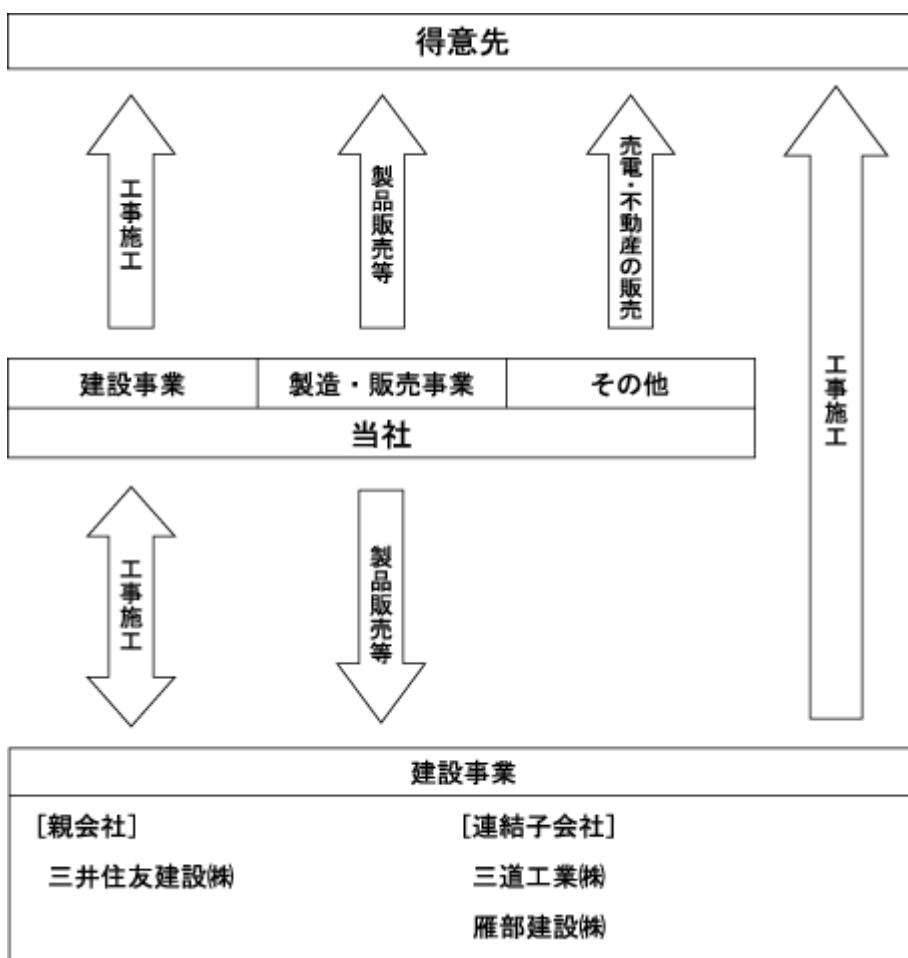
当社及び当社の関係会社は、三井住建道路株式会社(当社)、親会社、子会社2社により構成されており、建設事業を主な内容とし、これに付帯する諸材料の製造・販売事業及びその他の事業を営んでおります。

当社及び当社の関係会社の事業に係わる位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、セグメントと同一の区分であります。

区 分	内 容	主要な会社
建設事業	舗装工事、土木工事及び建築工事等に関する事業	当社、三井住友建設(株)、三道工業(株)、雁部建設(株) (会社数 計4社)
製造・販売事業	建設用資材の製造・販売に関する事業	当社 (会社数 計1社)
その他	売電事業及び不動産取引に関する事業	当社 (会社数 計1社)

以上の事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有又は 被所有割合(%)	関係内容
(親会社) 三井住友建設(株) (注2)	東京都中央区	12,003	建設事業	(被所有) 53.7	当社が舗装・土木工事等の 請負をしている。
(連結子会社) 三道工業(株) (注3)	札幌市東区	10	建設事業	100.0	当社より工事の一部を受注し、 当社に工事の一部を発注している。
雁部建設(株) (注3)	宮城県石巻市	30	建設事業	51.7	当社に工事の一部を発注している。 役員の兼任 1名

- (注) 1 「主要な事業の内容」の欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 有価証券報告書を提出しております。
3 特定子会社に該当いたしません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
建設事業	348〔50〕
製造・販売事業	47〔21〕
その他	1〔 〕
全社(共通)	40〔 〕
合計	436〔71〕

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しています。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
397〔71〕	44.9	17.1	6,563,559

セグメントの名称	従業員数(名)
建設事業	309〔50〕
製造・販売事業	47〔21〕
その他	1〔 〕
全社(共通)	40〔 〕
合計	397〔71〕

- (注) 1 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しています。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

提出会社においては、三井住建道路労働組合と称し、昭和51年8月16日結成され、平成26年3月31日現在の組合員数は、248名であります。連結子会社においては、労働組合は結成されていません。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外景気の下振れが国内の景気に影響を与えるリスクはあるものの、政府主導による経済諸施策の効果から消費等の内需を中心として景気は回復傾向にあり、また企業の業績回復による設備投資の持ち直し、雇用環境の改善が景気回復を確かなものとする期待があります。

道路建設業界におきましては、全国的な労務・施工要員不足や資機材価格の高騰等の懸念材料はあるものの、緊急経済対策の本格的な執行により公共投資が増加するとともに、官需の刺激により民間需要も回復するという、好循環の兆しが見え始め、堅調な推移となりました。

このような状況のもと、当社グループ（当社及び連結子会社をいう。以下同じ。）は、当期より「強靱な企業体質の創造」をコンセプトに掲げた「新中期経営計画(26/3期～28/3期)」をスタートさせ、その事業戦略に基づいた諸施策を推進し、事業量の確保と質の向上を図るとともに、市場性を捉えた投資・経営資源の配分を進め、利益確保に努めてまいりました。

その結果、受注高は380億41百万円（前連結会計年度比14.2%増加）となりました。売上高は364億22百万円（前連結会計年度比10.8%増加）、経常利益は14億34百万円（前連結会計年度比34.6%増加）、当期純利益は7億54百万円（前連結会計年度比37.8%増加）となりました。

なお、「新中期経営計画」で掲げております新規事業の創出の一環として、平成25年10月より太陽光発電による売電事業を開始しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、報告セグメントの利益は売上総利益の数値であります。

(建設事業)

建設事業におきましては、受注高は306億60百万円（前連結会計年度比13.7%増加）、完成工事高は290億21百万円（前連結会計年度比9.5%増加）、セグメント利益は21億35百万円（前連結会計年度比26.3%増加）となりました。

(製造・販売事業)

建設用資材の製造・販売事業におきましては、売上高は73億81百万円（前連結会計年度比16.0%増加）、セグメント利益は13億20百万円（前連結会計年度比1.1%増加）となりました。

(その他)

その他におきましては、太陽光発電による売電事業の売上高は20百万円、セグメント利益は10百万円となりました。（前連結会計年の売上はありませんでした。）

「新中期経営計画」の詳細につきましては、平成25年4月公表の「新中期経営計画策定のお知らせ」をご参照ください。

（当社ホームページ）

<http://www.smrc.co.jp>

(注) 「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きで表示しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動では、税金等調整前当期純利益の計上等により15億68百万円の資金の増加（前連結会計年度9億13百万円の資金の増加）となりました。

投資活動では、有形固定資産の取得による支出等により6億31百万円の資金の減少（前連結会計年度3億22百万円の資金の減少）となりました。

また、財務活動では、配当金の支払等により56百万円の資金の減少（前連結会計年度53百万円の資金の減少）となりました。

これにより「現金及び現金同等物の期末残高」は、8億80百万円増加し、61億65百万円（前連結会計年度比16.7%増加）となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループでは、生産実績を定義することが困難であるため「生産の状況」は記載しておりません。

(1) 受注実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
建設事業(百万円)	30,660	13.7
製造・販売事業(百万円)	7,381	16.0
合計	38,041	14.2

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

(2) 売上実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
建設事業(百万円)	29,021	9.5
製造・販売事業(百万円)	7,381	16.0
その他(百万円)	20	
合計	36,422	10.8

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 主な相手先別の売上高及び売上総額に対する割合は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度は売上高に対する割合が100分の10以上の相手先はありません。

会計年度	相手先	金額(百万円)	割合(%)
前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)			
当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	国土交通省	4,508	12.4

なお、参考のため提出会社個別の事業の状況は、次のとおりであります。

工事部門の状況

a 受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

期別	工種別	前期繰越 工事高 (百万円)	当期受注 工事高 (百万円)	計 (百万円)	当期完成 工事高 (百万円)	次期繰越工事高			当期施工高 (百万円)
						手持工事高 (百万円)	うち施工高 (%, 百万円)		
第66期	アスファルト 舗装工事	6,207	19,663	25,870	19,448	6,422	9.2	592	19,362
	コンクリート 舗装工事	361	1,475	1,837	1,471	365	18.9	69	1,539
	土木工事	1,795	4,497	6,293	4,601	1,691	16.5	278	4,648
	計	8,364	25,635	34,000	25,521	8,479	11.1	939	25,550
第67期	アスファルト 舗装工事	6,422	25,850	32,272	23,761	8,510	6.9	584	23,753
	コンクリート 舗装工事	365	1,574	1,940	1,400	539	3.3	18	1,349
	土木工事	1,691	1,834	3,525	2,842	683	22.7	155	2,719
	計	8,479	29,259	37,738	28,004	9,733	7.8	757	27,822

(注) 1 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額に変更あるものについては、当期受注工事高にその増減額を含めております。従って、当期完成工事高にもかかる増減額が含まれております。

2 次期繰越工事高の施工高は、手持工事高の工事進捗部分であります。

3 当期施工高は、(当期完成工事高 + 次期繰越施工高 - 前期繰越施工高)に一致します。

b 受注工事高の受注方法別比率

工事の受注方法は、特命と競争に大別されます。

期別	工種別	特命(%)	競争(%)	計(%)
第66期	アスファルト舗装工事	63.0	37.0	100.0
	コンクリート舗装工事	77.7	22.3	100.0
	土木工事	82.0	18.0	100.0
第67期	アスファルト舗装工事	52.6	47.4	100.0
	コンクリート舗装工事	59.0	41.0	100.0
	土木工事	82.1	17.9	100.0

(注) 百分比は、請負金額比であります。

c 完成工事高

期別	工種別	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
第66期	アスファルト舗装工事	8,883	10,564	19,448
	コンクリート舗装工事	588	883	1,471
	土木工事	1,073	3,528	4,601
	計	10,545	14,976	25,521
第67期	アスファルト舗装工事	8,972	14,788	23,761
	コンクリート舗装工事	231	1,169	1,400
	土木工事	726	2,116	2,842
	計	9,930	18,074	28,004

完成工事のうち主なものは、次のとおりであります。

第66期の完成工事のうち請負金額1億円以上の主なもの

発注者	工事名
東日本高速道路株式会社	東北自動車道北上管内舗装災害復旧工事
国土交通省関東地方整備局	新4号古河地区改良舗装工事
東京セキスイハイム株式会社	立川市幸町四丁目宅地造成工事
国土交通省近畿地方整備局	紀北東道路かつらぎ町域整備工事
国土交通省九州地方整備局	東九州道(県境～北川)家田地区舗装工事

第67期の完成工事のうち請負金額1億円以上の主なもの

発注者	工事名
東日本高速道路株式会社	道央自動車道岩見沢管内舗装補修工事
宮城県道路公社	仙台松島()舗装(7工区)工事
国土交通省関東地方整備局	湾岸道路根岸舗装(その1)工事
三井不動産レジデンシャル株式会社	(仮称)ファインコート相模原上鶴間計画宅地造成工事
国土交通省近畿地方整備局	紀北東道路大藪地区他舗装工事

d 手持工事高 (平成26年3月31日現在)

工種別	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
アスファルト舗装工事	6,474	2,036	8,510
コンクリート舗装工事	414	125	539
土木工事	269	413	683
計	7,157	2,575	9,733

手持工事のうち請負金額1億円以上の主なもの

発注者	工事名	完成予定年月
宮城県石巻市	石巻(鹿立浜・竹浜)地区防災集団移転宅地造成工事	平成26年12月
東京都	街路築造工事(25三 - 放6住吉町)外1箇所	平成26年8月
中日本高速道路株式会社	中央自動車道松本管内舗装補修工事(25年度)	平成27年2月
大阪府大阪市	長柄堺線舗装新設その他工事 - 2	平成26年6月
国土交通省九州地方整備局	東九州道(北郷～日南)大藤地区改築工事	平成26年11月

製品部門の状況

アスファルト合材等の販売実績は、次のとおりであります。

期別	アスファルト合材		その他売上金額 (百万円)	売上高合計 (百万円)
	売上数量(t)	売上金額(百万円)		
第66期	616,552	5,561	817	6,378
第67期	693,707	6,446	935	7,381

(注) その他売上金額は、乳剤、砕石等の素材の販売、機械の賃貸等の売上金額であります。

主要顧客の状況

売上高総額に対する割合が100分の10以上の相手先別の売上高及び割合は、次のとおりであります。

期別	相手先	金額(百万円)	割合(%)
第66期			
第67期	国土交通省	4,508	12.4

(注) 第66期は売上高総額に対する割合が100分の10以上の相手先はありません。

3 【対処すべき課題】

「新中期経営計画」に掲げた諸施策を着実に実行し、「強靱な企業体質の創造」を図ることが、企業が生き残り、成長を続けるために必要と考えております。

また、企業市民として、安全・品質の確保やコンプライアンスの徹底を実践し、公正妥当な事業活動を行うとともに、内部統制システムの充実に努めてまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した「第2 事業の状況」、「第5 経理の状況」等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、判断時点は当連結会計年度末におけるものです。

(1) 公共投資の動向

当社グループの主要事業である道路舗装事業は、公共投資への市場依存度が高く、その投資動向に売上が大きな影響を受けます。

(2) アスファルト価格の変動

調達資材のうち、輸入原油から製造され舗装原材料となるアスファルトは、原油と為替の市況により価格が変動しますが、製品販売価格や請負代金に転嫁させることができない場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 建設現場の事故

建設事業は、その作業環境や作業方法の特性から他の産業に比べ事故発生率が高く、建設現場で労働災害や公衆災害が発生した場合、その程度により建設業法上の監督処分（営業停止等）や公的発注機関の指名停止処分の対象となったり、あるいは損害賠償を受ける等によって、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 取引先の信用リスク

取引先につきましては、取引金額、会社規模及び経営状況等が多種多様なため、取引に際しては事前に信用調査等を入念に検討しておりますが、急激な事業環境の変化等により、取引先が信用不安に陥った場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 自然災害のリスク

当社グループの事務所や工場所在地を含む地域で大規模な地震、津波、風水害等の自然災害が発生し事業継続に深刻な支障をきたした場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

提出会社においては、技術研究所を中心に道路舗装材に関する調査・研究ならびに新材料・工法及び施工機械等の改良開発に努めております。

当連結会計年度における研究開発費は、75百万円でありました。なお、提出会社の研究開発活動は、建設事業及び建設用資材の製造・販売事業に関連するものであり、セグメント別に区分できないため、セグメント別には記載しておりません。

当連結会計年度における研究開発は、以下のとおりであります。

- 舗装の長寿命化技術の研究
- コンクリート舗装における情報化施工の研究
- 再生中温化アスファルト混合物の研究
- 全天候型常温合材の開発
- 土壌汚染浄化技術の研究
- 太陽光発電設備における防草対策工法の研究

なお、連結子会社においては、研究開発活動は行われておりません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比べ26億83百万円増加して、254億32百万円となりました。流動資産は同18億62百万円増加の204億73百万円、固定資産は8億20百万円増加の49億59百万円となりました。資産の増加の主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等の増加によるものであります。

流動負債は同17億5百万円増加の171億46百万円、固定負債は同3億90百万円増加の23億36百万円となりました。

負債の増加の主な要因は、支払手形・工事未払金等の増加によるものであります。

当連結会計年度末の純資産は、当期純利益を7億54百万円計上したこと等により、59億49百万円となりました。この結果、自己資本比率は23.2%となり、1株当たり純資産は317円84銭となっております。

(2) 経営成績

当連結会計年度の業績につきましては、受注高は前連結会計年度比14.2%増加の380億41百万円となりました。また、売上高は同10.8%増加の364億22百万円、経常利益は、売上高の増加等により同34.6%増加の14億34百万円となりました。また、当期純利益は同37.8%増加の7億54百万円となりました。

なお、受注工事高、完成工事高、製品販売については「第2 事業の状況 2 生産、受注及び販売の状況」に記載しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

営業活動では、税金等調整前当期純利益の計上等により15億68百万円の資金の増加（前連結会計年度9億13百万円の資金の増加）となりました。

投資活動では、有形固定資産の取得による支出等により6億31百万円の資金の減少（前連結会計年度3億22百万円の資金の減少）となりました。

また、財務活動では、配当金の支払等により56百万円の資金の減少（前連結会計年度53百万円の資金の減少）となりました。

これにより「現金及び現金同等物の期末残高」は、8億80百万円増加し、61億65百万円（前連結会計年度比16.7%増加）となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は、10億89百万円であり、セグメント別の内訳は、下記のとおりであります。

(建設事業)

当連結会計年度は、施工機械の拡充等であり、その総額は3億86百万円でありました。

(製造・販売事業)

当連結会計年度は、生産設備の増強を目的として投資を行い、その総額3億69百万円でありました。

(その他)

当連結会計年度は、太陽光発電設備の新設であり、その総額は2億79百万円でありました。

(全社)

当連結会計年度は、ソフトウェアの更新等であり、その総額は53百万円でありました。

なお、重要な設備の取得は以下のとおりであります。

(1) 提出会社

当連結会計年度に以下の設備を取得いたしました。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	取得価額(百万円)				
			建物・ 構築物	機械及び 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計
本店 (東京都新宿区)	建設事業	コンクリート舗装機械		101	()		101
東北支店 (仙台市青葉区)	建設事業	宮城営業所事務所他	59		14 (2,754)		73
中国支店 (広島市東区)	その他	太陽光発電設備	4	270	()	4	279

(注) 取得価額のうち「その他」は、工具器具・備品であります。

(2) 連結子会社

該当事項はありません。

(注) 「第3 設備の状況」における各事項の記載については、消費税等抜き金額で表示しております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
		建物・構築物	機械及び装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本店 (東京都新宿区)	全社 その他	97	107	630 (832)	21	856	34
北海道支店 (札幌市中央区)	建設事業 製造・販売事業 その他	270	109	423 (139,530) 〔17,013〕	0	803	51
東北支店 (仙台市青葉区)	建設事業 製造・販売事業	239	94	117 (44,035) 〔22,177〕	1	453	62
関東支店 (東京都新宿区)	建設事業 製造・販売事業	323	69	980 (18,884) 〔12,510〕	2	1,376	109
関西支店 (大阪市西区)	建設事業 製造・販売事業	68	25	150 (1,639) 〔10,364〕	1	246	34
九州支店 (福岡市中央区)	建設事業 製造・販売事業	158	83	115 (30,147) 〔40,262〕	1	357	63

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具器具・備品及びリース資産であります。
2 土地及び建物の一部を連結会社以外から賃借しております。年間賃借料は、124百万円であり、土地の面積については、〔 〕で外書しております。

(2) 国内子会社

重要な設備はありません。

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	備考
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		
提出会社	九州支店 (福岡市中央区)	製造・販売事業	松橋合材工場 アスファルト合材 生産設備	570		自己資金	平成26年7月着工 平成26年9月完成予定

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等の他には、重要な設備の除却等の計画はありません。

- (注) 連結子会社においては、設備の新設等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成26年6月27日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	18,555,000	18,555,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株であります。
計	18,555,000	18,555,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年7月31日		18,555		1,329	1,000	541

(注) 平成21年6月26日開催の第62期定時株主総会において、資本準備金1,000百万円を減少させその全額をその他資本剰余金へ振り替えることにつき承認可決され、平成21年7月31日にその効力が発生しております。

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(単元株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		7	19	43	14	1	1,316	1,400	
所有株式数(単元)		675	531	10,719	1,047	1	5,572	18,545	10,000
所有株式数の割合(%)		3.6	2.9	57.8	5.7	0.0	30.0	100.0	

(注) 1 自己株式7,468株は、「個人その他」に7単元、「単元未満株式の状況」に468株含まれております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
三井住友建設株式会社	東京都中央区佃2丁目1番6号	9,963	53.69
クレディットスイスアーゲー チューリッヒ (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	UETLIBERGSTRASSE 231 P.O.BOX 600 CH-8070 ZURICH SWITZERLAND (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	503	2.71
三井住建道路従業員持株会	東京都新宿区余丁町13-27	326	1.76
ゴールドマンサックスインターナショナル (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB,UK (東京都港区六本木6丁目10番1号)	320	1.72
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4	290	1.56
重田康光	東京都港区	270	1.46
並河賢一郎	北海道旭川市	215	1.16
服部光夫	大阪府泉佐野市	190	1.02
宇部木材株式会社	山口県宇部市西平原3丁目2-22	172	0.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	172	0.93
計		12,421	66.94

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,538,000	18,538	
単元未満株式	普通株式 10,000		単元株式数(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	18,555,000		
総株主の議決権		18,538	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式468株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 三井住建道路株式会社	東京都新宿区余丁町13-27	7,000		7,000	0.0
計		7,000		7,000	0.0

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成26年5月26日) での決議状況 (取得期間 平成26年6月2日～平成26年12月30日)	300,000	100,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合 (%)	100.0	100.0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの取得による株式数は含まれておりません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	1,495	359,181
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	7,468		7,468	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までに取得した株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社の配当政策は、業績の状況や長期的な事業発展のための内部留保の充実等を勘案しつつ、株主の皆様へは、安定的な配当の継続とともに利益還元を積極的に行うことを基本方針としております。

当社の配当の実施については、定款にて期末配当、中間配当の他、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる旨定めており、配当の決定は、取締役会の決議によって行っております。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、業績と経営環境等を勘案し、1株当たり3円の配当といたしました。

内部留保金につきましては、主として設備投資の強化に充当する予定であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年5月26日 取締役会	55	3.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	109	189	234	235	307
最低(円)	63	73	80	108	178

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	284	265	265	273	254	235
最低(円)	225	245	228	250	217	211

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	執行役員社長	澤 誠之助	昭和25年9月26日生	昭和49年4月 平成13年6月 平成15年4月 平成16年6月 平成18年10月 平成21年4月 平成21年6月	三井建設株式会社入社 同社取締役、執行役員、東京 土木支店長 三井住友建設株式会社執行役 員、東京土木支店長 同社取締役、執行役員、土木 事業本部副本部長 同社常務執行役員、土木営業 本部長 当社特別顧問 当社代表取締役社長(現任)、 執行役員社長(現任)	(注) 1	23
取締役	執行役員副社長 営業担当 監査部担当	高 木 春 生	昭和26年4月27日生	昭和49年4月 平成15年12月 平成16年4月 平成19年4月 平成21年4月 平成21年6月 平成22年4月 平成22年6月 平成23年4月 平成24年4月 平成25年4月 平成26年4月	三井建設株式会社入社 三井住友建設株式会社土木營 業統括部土木営業第五部長 同社土木営業統括部工ネル ギ一営業部長 同社土木営業本部土木営業第 二部長 同社土木本部土木営業部長 当社執行役員、営業本部副本 部長 当社常務執行役員 当社取締役(現任) 当社技術研究所担当 当社専務執行役員 当社執行役員副社長(現任)、 営業管掌、監査部担当(現任) 当社営業担当(現任)	(注) 1	9
取締役	執行役員副社長 営業担当 技術研究所担当	岩 崎 正 也	昭和26年6月29日生	昭和49年4月 平成10年7月 平成15年10月 平成17年10月 平成21年6月 平成22年4月 平成22年6月 平成24年4月 平成26年4月	住建道路株式会社入社 同社東京支店工事部長 当社関東支店営業部長 当社関東支店副支店長 当社執行役員、関東支店長 当社常務執行役員、営業本部 長 当社取締役(現任) 当社専務執行役員 当社執行役員副社長(現任)、 営業担当(現任)、技術研究所 担当(現任)	(注) 1	10
取締役	専務執行役員 工事本部長 安全統括 安全環境部担当	加 藤 和 歳	昭和28年10月5日生	昭和47年4月 平成16年6月 平成18年4月 平成18年5月 平成20年7月 平成22年4月 平成23年4月 平成24年4月 平成24年6月 平成24年7月 平成26年4月	三井道路株式会社入社 当社九州支店工事部長 I S O 管理部長 当社工事本部工務部長 当社工事本部工事一部長 当社九州支店副支店長 当社九州支店長 当社執行役員 当社常務執行役員、工事本部 長(現任)、安全統括(現任) 当社取締役(現任) 当社安全環境部担当(現任) 当社専務執行役員(現任)	(注) 1	23

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	専務執行役員 営業本部長	松井 隆幸	昭和31年5月22日生	昭和54年4月 平成18年4月 平成21年6月 平成22年4月 平成23年4月 平成24年4月 平成25年4月 平成26年4月 平成26年6月	三井道路株式会社入社 当社北海道支店製品部長 当社工事本部製品部長 当社企画・管理本部経営企画部長 当社執行役員、工事本部副本部長兼購買部長 当社九州支店長 当社常務執行役員 当社専務執行役員(現任)、営業本部長(現任) 当社取締役(現任)	(注)1	7
取締役	常務執行役員 企画・管理本部長	根来 悟	昭和31年8月29日生	昭和54年4月 平成15年10月 平成18年4月 平成20年7月 平成23年4月 平成24年4月 平成26年4月 平成26年6月	住建道路株式会社入社 当社企画・管理本部経営企画部副部長 当社関東支店事務部長 当社九州支店事務部長 当社企画・管理本部経営企画部長 当社執行役員、企画・管理本部副本部長 当社常務執行役員(現任)、企画・管理本部長(現任) 当社取締役(現任)	(注)1	3
取締役	執行役員 企画・管理本部 副本部長 兼総務部長	川島 淳	昭和28年8月2日生	昭和52年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成25年4月 平成25年6月	三井建設株式会社入社 三井住友建設株式会社首都圏住宅建設事業部総務部長 同社東京建築支店営業管理部長 同社建築営業本部建築営業管理部長 当社企画・管理本部総務部長(現任) 当社執行役員(現任)、企画・管理本部副本部長(現任) 当社取締役(現任)	(注)1	3
監査役 (常勤)		井上 達夫	昭和24年7月23日生	昭和48年4月 平成9年12月 平成15年4月 平成18年4月 平成18年6月 平成21年6月 平成22年4月 平成24年4月 平成24年6月	三井建設株式会社入社 同社財務部長 三井住友建設株式会社財務統括部財務部長 当社顧問 当社執行役員、企画・管理本部副本部長、財務担当 当社常務執行役員 当社専務執行役員、企画・管理本部長 当社企画・管理本部付 当社常勤監査役(現任)	(注)2	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
監査役		仲川 政一	昭和25年1月1日生	昭和48年4月 平成6年4月 平成9年11月 平成15年10月 平成16年6月 平成19年6月 平成22年4月 平成24年4月 平成24年6月 平成26年6月	三井道路株式会社入社 同社情報システム部長 同社営業本部営業企画部長 当社営業本部営業企画部長 当社企画・管理本部経営企画部長 当社執行役員 当社常務執行役員、企画・管理本部副本部長 当社専務執行役員、企画・管理本部部長 当社取締役 当社監査役(現任)	(注)3	5	
監査役		布施 憲子	昭和27年5月3日生	昭和56年4月 昭和58年4月 平成10年4月 平成17年1月 平成20年4月 平成22年6月	弁護士登録(第一東京弁護士会) 布施法律事務所入所(現任) 東京簡易裁判所民事調停委員 東京紛争調整委員会委員(東京労働局) 田園調布学園大学人間福祉学部教授 当社監査役(現任)	(注)2		
監査役		阿部 勉	昭和33年9月24日生	昭和57年4月 平成15年4月 平成21年7月 平成23年4月 平成23年6月	三井建設株式会社入社 三井住友建設株式会社管理本部財務部財務管理課長 同社横浜支店管理部長 同社関連事業部長(現任) 当社監査役(現任)	(注)2		
計								93

- (注) 1 各取締役の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 各監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役仲川政一氏の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役布施憲子及び阿部勉の各氏は、社外監査役であります。
- 5 平成26年6月27日現在の執行役員は、次のとおりであります。(は取締役兼務者であります。)

役名	氏名	職名
執行役員社長	澤 誠之助	
執行役員副社長	高木 春生	営業担当、監査部担当
執行役員副社長	岩崎 正也	営業担当、技術研究所担当
専務執行役員	加藤 和歳	工事本部長、安全統括、安全環境部担当
専務執行役員	松井 隆幸	営業本部長
常務執行役員	根来 悟	企画・管理本部本部長
常務執行役員	石田 太成	営業本部副本部長
常務執行役員	浅野 幸一	東北支店長
常務執行役員	赤塚 秀一	関東支店長
執行役員	川島 淳	企画・管理本部副本部長兼総務部長
執行役員	佐々木 日出幸	中部支店長
執行役員	伊藤 純一	関西支店長
執行役員	泉 裕明	工事本部副本部長
執行役員	城戸 恭一	北海道支店長

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

〔コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方〕

当社は経営理念に基づく事業活動を行う上で、効率的で公正な経営体制を構築し、継続的に企業価値を高めていくことにより株主をはじめとする全ての関係者の方の信頼に応えるため、

- ・透明で効率のよい経営
- ・迅速な意思決定
- ・経営チェック機能の強化
- ・適時適切な情報開示

をコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

〔会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況〕

会社の機関の内容及び内部統制システム整備の状況

- イ 取締役会は、7名の取締役で構成され、経営に関する重要事項の審議決定と業務執行状況の報告を受けております。なお、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うこととしており、取締役の員数は10名以内と定めております。
- ロ 経営会議は、会長、社長及び業務を担当する取締役などで構成され、経営戦略に関する事項ならびに取締役会に付議する重要事項等について適宜審議を行っております。
- ハ 執行役員制度により、特定の業務執行を担当する執行役員を選任し、業務執行機能の強化を図っております。
- ニ 監査役制度を採用し、社外監査役2名を含めた4名の監査役で監査役会は構成されています。常勤監査役は、経営会議に出席し審議事項の報告を受けるほか、社外監査役は社内監査役と共に当社の意思決定機関である取締役会に出席し、取締役の業務執行状況や財政状況を監査しております。
- ホ 監査役会は、必要に応じ開催し監査計画の立案や監査職務の分担など監査に関する重要事項について協議・決議を行っております。また、社外監査役は社内監査役と共に取締役との意見交換会を設けて相互認識を深めています。
- ヘ 当社は「内部統制システムに関する基本方針」を多年度に亘る継続的な取り組みの基本方針と捉え、毎事業年度に見直しを行うとともに、「内部統制システムに関する基本方針」に沿って、次の事項を明確にし、内部統制システムの整備・運用の充実を図っています。
 - ・コンプライアンス関係は、行動規範となる「企業行動憲章」を定め周知徹底を図るとともに、役員、社員及び子会社幹部等に対するコンプライアンス教育を継続的に実施し、個人及び組織のコンプライアンスの向上を図っています。
 - ・リスク管理は、リスク管理規則に基づき、リスク管理委員会が、リスクの予防を含めた対処を行っております。
 - ・監査役監査の補助使用人は、監査役の業務の必要性に応じて設けます。

内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

- イ 内部監査は、監査部（人員2名）が、内部統制監理室と連携して内部統制の執行状況や法令等の順守状況について業務監査を行い、監視機能の充実を図っております。
- ロ 監査役監査は、監査役が取締役会や他の重要な会議に出席するなどして、監視機能の充実を図っております。また、監査役は監査部と連携し、コンプライアンス関係の監査も行っております。
- ハ 会計監査は、新日本有限責任監査法人与監査契約を締結し、会社法監査ならびに金融商品取引法監査を受けております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

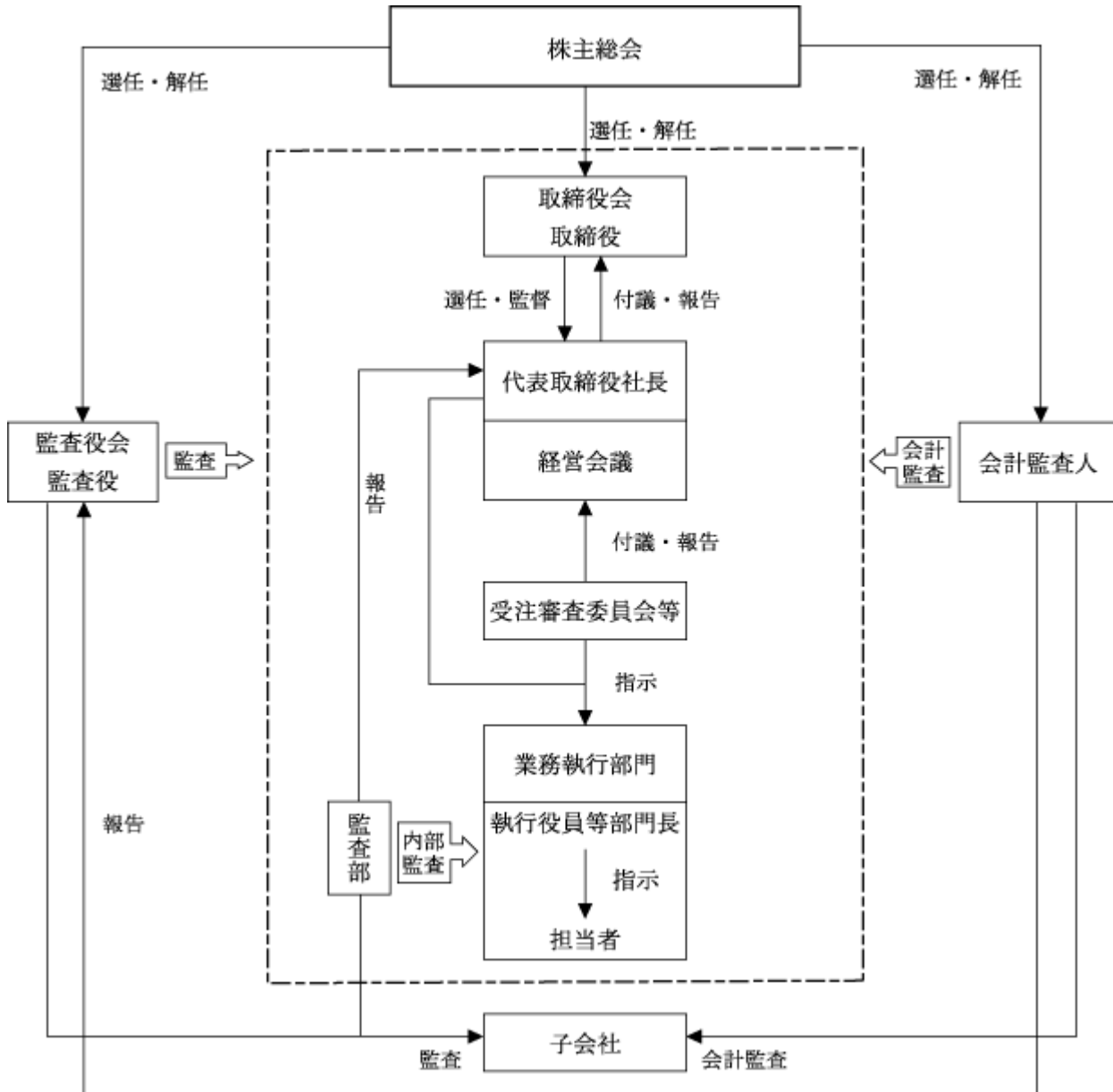
公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員	若 松 昭 司	新日本有限責任監査法人
業務執行社員	藤 原 明	

* 継続監査年数については、業務執行社員の全員が7年以内であるため記載を省略しています。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 15名 その他 10名

（注）その他は、公認会計士試験合格者等であります。



社外取締役及び社外監査役の状況

当社は社外取締役を選任しておりませんが監査役会を設置し、社外監査役2名を選任しております。

社外監査役布施憲子氏は、弁護士であり、弁護士としての専門的な知識と豊かな経験によって、客観的かつ公正な立場から適切な監査を行っており、当社は、同人を独立役員として東京証券取引所に届出しております。また、当社は、社外監査役との間に責任限定契約を締結できる旨を定款に定めており、同人とは、会社法第427条第1項の規定に基づく責任限定契約を締結しております。

社外監査役阿部勉氏は、親会社(出資比率は53.71%であり、当社は同社からの工事請負と出向者の受入れをしております。)の社員であり、長年にわたり建設業に関する幅広い業務の経験を重ね建設業全般に関する相当程度の知見を有しており、客観的かつ公正な立場から適切な監査を行っております。

なお、当社は、社外役員の独立性に関する基準又は方針を特に定めておりませんが、選任にあたっては東京証券取引所の定める要件等を参考にしております。社外監査役は業務執行を行わない会社役員であるという点において、社外取締役以上に経営からの独立性が高いと考えております。

各社外監査役と当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

役員報酬の内容

当社の役員報酬は、株主総会で定められた報酬月額限度額の範囲内で、取締役については取締役会の決議により、監査役については監査役の協議により決定しております。

役員区分	員数 (名)	報酬等の総額 (百万円)		
		基本報酬	賞与	その他
取締役	8	47	47	
監査役 (社外監査役を除く)	2	13	13	
社外監査役	1	3	3	

- (注) 1 株主総会決議による報酬限度額は、取締役月額12百万円以内、監査役年額24百万円以内であります。
- 2 使用人兼務取締役(4名)の使用人給与相当額は上表支給額とは別枠であり、その額は24百万円であります。
- 3 社外監査役2名のうち1名は無報酬であります。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	11銘柄
貸借対照表計上額の合計額	31百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
明和地所株式会社	13,000	7	企業間取引の強化
三井金属鉱業株式会社	18,869	4	企業間取引の強化
株式会社レオパレス21	13,000	5	企業間取引の強化

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
明和地所株式会社	13,000	5	企業間取引の強化
三井金属鉱業株式会社	21,451	5	企業間取引の強化
株式会社レオパレス21	13,000	6	企業間取引の強化

ハ 保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

取締役の選任議決要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別議決要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

当社は、利益状況に適した配当の水準及び時期ならびに適正な資本政策を機動的に決定するため、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によるものとしております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	37	1	39	
連結子会社				
計	37	1	39	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、財務報告目的の内部統制の整備・運用・評価等の変更にかかる助言業務であります。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	5,290	6,175
受取手形・完成工事未収入金等	3 11,985	13,160
販売用不動産	2	2
未成工事支出金	4 883	4 733
材料貯蔵品	120	132
繰延税金資産	222	172
その他	1 117	114
貸倒引当金	11	16
流動資産合計	18,610	20,473
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	1 2,901	1 3,192
機械及び装置	4,750	5,119
土地	1,2 2,485	1,2 2,514
建設仮勘定		21
その他	374	388
減価償却累計額	6,738	6,634
有形固定資産合計	3,774	4,601
無形固定資産		
	168	158
投資その他の資産		
破産更生債権等	25	22
繰延税金資産	6	8
その他	1 210	1 231
貸倒引当金	46	63
投資その他の資産合計	195	198
固定資産合計	4,138	4,959
資産合計	22,749	25,432

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3 12,644	13,890
未払法人税等	530	597
未成工事受入金	910	1,208
完成工事補償引当金	31	32
賞与引当金	7	8
工事損失引当金	4 62	4 37
資産除去債務	1	
その他	1,252	1,372
流動負債合計	15,440	17,146
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	2 335	2 335
退職給付引当金	1,510	
退職給付に係る負債		1,834
資産除去債務	72	83
その他	27	82
固定負債合計	1,946	2,336
負債合計	17,387	19,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,329	1,329
資本剰余金	1,541	1,541
利益剰余金	2,350	3,068
自己株式	0	0
株主資本合計	5,220	5,938
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	3
土地再評価差額金	2 97	2 97
退職給付に係る調整累計額		144
その他の包括利益累計額合計	102	43
少数株主持分	39	54
純資産合計	5,362	5,949
負債純資産合計	22,749	25,432

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高	32,861	36,422
売上原価	¹ 29,864	¹ 32,956
売上総利益	2,996	3,466
販売費及び一般管理費	^{2,3} 1,941	^{2,3} 2,029
営業利益	1,054	1,436
営業外収益		
受取利息	2	1
受取地代家賃	2	3
保険事務手数料	2	2
貸倒引当金戻入額	8	
雇用調整助成金	2	1
その他	5	3
営業外収益合計	25	11
営業外費用		
支払利息	0	0
支払保証料	12	11
その他	1	1
営業外費用合計	14	13
経常利益	1,065	1,434
特別利益		
固定資産売却益	⁴ 6	⁴ 2
投資有価証券清算益	2	
特別利益合計	9	2
特別損失		
固定資産除却損	⁵ 7	⁵ 8
減損損失		⁶ 2
特別損失合計	7	11
税金等調整前当期純利益	1,067	1,426
法人税、住民税及び事業税	549	608
法人税等調整額	41	48
法人税等合計	508	656
少数株主損益調整前当期純利益	558	769
少数株主利益	11	15
当期純利益	547	754

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	558	769
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	0
土地再評価差額金		0
その他の包括利益合計	1 2	1 0
包括利益	561	769
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	550	754
少数株主に係る包括利益	11	15

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,329	1,541	1,839	0	4,710
当期変動額					
剰余金の配当			37		37
当期純利益			547		547
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			510	0	510
当期末残高	1,329	1,541	2,350	0	5,220

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	2	97	99		4,810
当期変動額					
剰余金の配当					37
当期純利益					547
自己株式の取得					0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	2		2	39	41
当期変動額合計	2		2	39	552
当期末残高	4	97	102	39	5,362

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,329	1,541	2,350	0	5,220
当期変動額					
剰余金の配当			37		37
当期純利益			754		754
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			717	0	717
当期末残高	1,329	1,541	3,068	0	5,938

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	4	97		102	39	5,362
当期変動額						
剰余金の配当						37
当期純利益						754
自己株式の取得						0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	0	0	144	145	15	130
当期変動額合計	0	0	144	145	15	587
当期末残高	3	97	144	43	54	5,949

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,067	1,426
減価償却費	286	257
のれん償却額	5	
貸倒引当金の増減額(は減少)	13	21
退職給付引当金の増減額(は減少)	133	
退職給付に係る負債の増減額(は減少)		179
賞与引当金の増減額(は減少)	2	1
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	6	1
工事損失引当金の増減額(は減少)	7	24
受取利息及び受取配当金	3	1
支払利息	0	0
固定資産売却損益(は益)	6	2
固定資産除却損	7	8
減損損失		2
投資有価証券清算益	2	
売上債権の増減額(は増加)	237	1,174
たな卸資産の増減額(は増加)	26	138
その他の流動資産の増減額(は増加)	45	7
その他の固定資産の増減額(は増加)	9	18
仕入債務の増減額(は減少)	730	1,244
未成工事受入金の増減額(は減少)	86	298
その他の流動負債の増減額(は減少)	329	252
その他	0	13
小計	1,323	2,111
利息及び配当金の受取額	3	1
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	411	543
営業活動によるキャッシュ・フロー	913	1,568
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	3	7
定期預金の払戻による収入		3
定期積金の預入による支出	3	4
定期積金の払戻による収入	3	3
有形固定資産の取得による支出	309	607
有形固定資産の売却による収入	16	12
有形固定資産の除却による支出	3	9
投資有価証券の取得による支出	0	10
投資有価証券の清算による収入	3	
投資有価証券の償還による収入		10
資産除去債務の履行による支出	5	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2	8
その他	29	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	322	631

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	16	19
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	36	36
財務活動によるキャッシュ・フロー	53	56
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	537	880
現金及び現金同等物の期首残高	4,747	5,285
現金及び現金同等物の期末残高	1 5,285	1 6,165

【注記事項】

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

- 1 連結の範囲に関する事項
すべての子会社を連結しております。子会社は、三道工業㈱、雁部建設㈱の2社であります。
- 2 持分法の適用に関する事項
該当事項はありません。
- 3 連結子会社の事業年度等に関する事項
連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しております。
- 4 会計処理基準に関する事項
 - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
 - 有価証券
 - 満期保有目的の債券
 - 償却原価法(定額法)
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの
 - 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)
 - 時価のないもの
 - 移動平均法による原価法
 - たな卸資産
 - 販売用不動産
 - 個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
 - 未成工事支出金
 - 個別法による原価法
 - 材料貯蔵品
 - 総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
 - (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産(リース資産を除く)
 - 当社は定額法、連結子会社は建物は定額法、建物以外は定率法によっております。
 - 無形固定資産(リース資産を除く)
 - ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
 - リース資産
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 - リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
 - (3) 重要な引当金の計上基準
 - 貸倒引当金
 - 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - 完成工事補償引当金
 - 完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。
 - 賞与引当金
 - 従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。
 - 工事損失引当金
 - 当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上しております。
 - (4) 退職給付に係る会計処理の方法
 - 退職給付見込額の期間帰属方法
 - 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
 - 数理計算上の差異、過去勤務費用及び会計基準変更時差異の費用処理方法
 - 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

会計基準変更時差異は、15年による定額法により費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗度の見積もりは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、4,236百万円であります。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

当連結会計年度末より、「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)を適用しております。(ただし、退職給付に関する会計基準第35項本文及び退職給付に関する会計基準の適用指針第67項本文に掲げられた定めを除きます。)

退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用及び未認識会計基準変更時差異を退職給付に係る負債に計上しました。

退職給付に関する会計基準の適用については、退職給付に関する会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が144百万円計上されております。また、その他の包括利益累計額が144百万円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

有形固定資産の減価償却方法の変更

当社の有形固定資産の減価償却の方法については、建物及びリース資産を除き定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

当社は、道路建設業界の市場環境が新規建設から維持補修へと変化していることを踏まえ安定的かつ持続可能な経営基盤の確立を目指して、当連結会計年度を開始年度とする新たな中期経営計画を策定しました。当該計画を達成するために必須の設備投資として、主要な生産設備である合材工場等をはじめとする製造・販売事業に関わる資産の大規模な更新と増強を計画しております。当連結会計年度以降の製品生産数量は安定すると期待され、また、当該計画に基づく新たな設備については、急激な技術的・経済的陳腐化がないと予想されることから予定耐用年数にわたって安定的に稼働することが見込まれています。

このように、当該計画に基づく設備投資等を契機として当社の有形固定資産の減価償却方法を改めて見直した結果、耐用年数にわたり均等に費用配分を行うことが、企業活動の実態をより適切に反映できるものと判断し、定額法を採用することといたしました。

この変更により、当連結会計年度の売上総利益が76百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ78百万円増加しております。

(表示方法の変更)

連結損益計算書関係

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「保険事務手数料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度から区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた8百万円は、「保険事務手数料」2百万円、「その他」5百万円として組み替えております。

連結キャッシュ・フロー計算書関係

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「投資有価証券の取得による支出」は、重要性が増したため、当連結会計年度から独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた29百万円は、「投資有価証券の取得による支出」0百万円、「その他」29百万円として組み替えております。

(追加情報)

確定拠出年金制度への移行

当社は、平成26年3月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度への移行を決定し「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。

本移行に伴い、マイナスの過去勤務費用が466百万円発生しており、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を費用処理(費用の減額)しております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

(1) 下記の資産は、宅地建物取引業法に基づく営業保証金として担保に供しております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
その他(有価証券)	9百万円	百万円
その他(投資有価証券)		9

(2) 下記の資産は、借入金の担保に供しております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物・構築物	409百万円	449百万円
土地	2,027	2,027
その他(投資有価証券)	12	11
計	2,450	2,489

(上記資産に対応する債務)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	百万円	百万円

上記資産については、期中の銀行借入取引のため担保に供しております。

なお、建物・構築物及び土地に対しては、1,010百万円を極度額とした根抵当権を設定しております。

2 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日改正)に基づき、事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関連する金額を課税標準とする税金に相当する金額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 平成13年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定する方法

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
再評価を行った土地の期末における 時価と再評価後の帳簿価額との差額	698百万円	697百万円

3 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	136百万円	百万円
支払手形	9	

4 損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

工事損失引当金に対応する未成工事支出金の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
	45百万円	25百万円

(連結損益計算書関係)

1 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	61百万円	37百万円

2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
従業員給料手当	965百万円	994百万円
退職給付費用	79	90

3 研究開発費

一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	68百万円	75百万円

なお、前連結会計年度及び当連結会計年度の製造費用に含まれている研究開発費はありません。

4 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械及び装置	6百万円	2百万円
その他	0	
計	6	2

5 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物・構築物	3百万円	7百万円
機械及び装置	4	0
その他	0	0
計	7	8

6 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

地域	主な用途	種類	減損損失
北海道札幌市	事業用資産	建物・構築物	2百万円

当社グループは、原則として、事業用資産については継続的に収支の把握を行っている管理会計上の事業単位を基準としてグルーピングしております。また、遊休資産についてはそれぞれ個別の物件毎にグルーピングしております。

上記資産については、建物の解体決議に伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額及び解体費用を減損損失として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物・構築物0百万円、解体費用2百万円であります。

回収可能価額は、解体のため使用価値を零として算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	3百万円	0百万円
組替調整額		
税効果調整前	3	0
税効果額	1	0
その他有価証券評価差額金	2	0
土地再評価差額金		
税効果額		0
その他の包括利益合計	2	0

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	18,555,000			18,555,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	5,309	664		5,973

(変更事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取 664株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 5月24日 取締役会	普通株式	37	2.0	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年 5月27日 取締役会	普通株式	37	利益剰余金	2.0	平成25年 3月31日	平成25年 6月28日

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	18,555,000			18,555,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	5,973	1,495		7,468

(変更事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取 1,495株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月27日 取締役会	普通株式	37	2.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月26日 取締役会	普通株式	55	利益剰余金	3.0	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金預金	5,290百万円	6,175百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3	7
預入期間が3ヶ月を超える定期積金	1	2
現金及び現金同等物	5,285	6,165

2 前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

株式の取得により新たに雁部建設株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と同社取得による収入(純額)との関係は、次のとおりであります。

	百万円
流動資産	178
固定資産	8
のれん	5
流動負債	127
少数株主持分	28
雁部建設株式会社株式の取得価額	35
雁部建設株式会社現金及び現金同等物	44
差引：雁部建設株式会社取得による収入	8

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主に建設事業における宿舍(建物)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	0百万円	0百万円
1年超	0	
計	1	0

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金に限定し、資金調達は短期の銀行借入によっております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスクならびに管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、受注審査規則による与信審査及び与信残高の管理等によってリスクの低減を図っております。また、投資有価証券である株式は、主に営業上関係を有する企業の株式であり、市場価格変動リスクに晒されておりますが、四半期毎に時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、ほとんどが1年以内の支払期日であります。

法人税、住民税(都道府県民税及び市町村民税をいう。)及び事業税の未払額である未払法人税等は、そのほぼ全てが2ヶ月以内に納付期限が到来するものであります。

また、これら営業債務及び未払法人税等の金銭債務は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは各社が月次に資金計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合は合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)参照)。

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 現金預金	5,290	5,290	
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	11,985	11,985	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	9	9	0
その他有価証券	17	17	
資 産 計	17,303	17,303	0
(1) 支払手形・工事未払金等	12,644	12,644	
(2) 未払法人税等	530	530	
負 債 計	13,175	13,175	

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 現金預金	6,175	6,175	
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	13,160	13,160	
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	9	9	0
その他有価証券	17	17	
資 産 計	19,362	19,362	0
(1) 支払手形・工事未払金等	13,890	13,890	
(2) 未払法人税等	597	597	
負 債 計	14,487	14,487	

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券について定められた注記事項は、「有価証券関係」に記載しております。

負 債

(1) 支払手形・工事未払金等及び(2)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	14	14

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「資産(3) その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日の償還予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	5,282			
受取手形・完成工事未収入金等	11,985			
有価証券 満期保有目的の債券(国債)	9			
合計	17,278			

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	6,145			
受取手形・完成工事未収入金等	13,160			
投資有価証券 満期保有目的の債券(国債)		9		
合計	19,305	9		

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの 国債	9	9	0
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの 国債			
合計	9	9	0

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位：百万円)

種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの 国債	9	9	0
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの 国債			
合計	9	9	0

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	17	10	6
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式			
合計	17	10	6

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位：百万円)

種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	17	10	6
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式			
合計	17	10	6

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社グループは、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等の際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

百万円

(1) 退職給付債務	2,203
(2) 未積立退職給付債務	2,203
(3) 会計基準変更時差異の未処理額	157
(4) 未認識数理計算上の差異	534
(5) 連結貸借対照表計上額純額 ((2) + (3) + (4))	1,510
(6) 退職給付引当金	1,510

(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

百万円

(1) 勤務費用	90
(2) 利息費用	35
(3) 会計基準変更時差異の費用処理額	78
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	46
(5) 退職給付費用((1) + (2) + (3) + (4))	251

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「(1) 勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

1.0%

(3) 数理計算上の差異の処理年数

10年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(4) 会計基準変更時差異の処理年数

提出会社においては、15年であります。

なお、連結子会社の会計基準変更時差異は一括費用処理しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

当社は、平成26年3月に退職一時金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行することを決定しております。確定拠出年金制度への移行は平成26年10月を予定しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	百万円
退職給付債務の期首残高	2,196
勤務費用	121
利息費用	21
数理計算上の差異の発生額	59
退職給付の支払額	102
過去勤務費用の発生額	466
確定拠出年金制度への移行に伴う減少額	0
<u>退職給付債務の期末残高</u>	<u>1,830</u>

(注) 当社は、退職一時金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行することにより、当連結会計年度において退職給付債務が466百万円減少し、マイナスの過去勤務費用が466百万円発生しております。当該過去勤務費用は、改訂日より発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

(2) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	百万円
退職給付に係る負債の期首残高	7
退職給付費用	0
退職給付の支払額	2
<u>退職給付に係る負債の期末残高</u>	<u>4</u>

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	百万円
勤務費用	121
利息費用	21
数理計算上の差異の費用処理額	65
過去勤務費用の費用処理額	3
会計基準変更時差異の費用処理額	78
簡便法で計算した退職給付費用	0
<u>確定給付制度に係る退職給付費用</u>	<u>285</u>
<u>確定拠出制度への移行に伴う損益</u>	<u>0</u>

(4) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は、次のとおりであります。

	百万円
未認識数理計算上の差異	528
未認識過去勤務費用	462
会計基準変更時差異の未処理額	78
<u>合計</u>	<u>144</u>

(5) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における数理計算上の計算基礎

割引率 1.0 %

3 その他の退職給付に関する事項

当連結会計年度における退職一時金制度から確定拠出年金制度への一部移行に伴う影響額(税効果控除前)は次のとおりであります。

	百万円
退職給付債務の減少	0
会計基準変更時差異の未処理額	0
未認識数理計算上の差異	0
未認識過去勤務費用	0

また、確定拠出年金制度への資産移換額は0百万円であり、4年間で移換する予定です。なお、当連結会計年度末時点の未移換額0百万円は未払金(流動負債の「その他」)、長期未払金(固定負債の「その他」)に計上しております。

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社グループは、ストック・オプション等を行っておりませんので、該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	6百万円	23百万円
退職給付引当金	539	
退職給付に係る負債		602
販売用不動産評価減	14	14
その他	361	314
繰延税金資産小計	922	954
評価性引当額	686	763
繰延税金資産合計	235	191
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2	2
資産除去債務に対応する除去費用	4	7
繰延税金負債合計	6	9
繰延税金資産の純額	228	181

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5	1.5
住民税均等割	3.4	2.4
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正		0.9
税額控除	0.5	1.7
評価性引当額	4.8	5.3
その他	0.4	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.6%	46.0%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に交付され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の38.0%から35.6%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が12百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が12百万円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営者が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、工事施工・製品販売などに応じて組織された部署を本店に置き、各部署は各事業に関する包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は「建設事業」及び「製造・販売事業」の2つを報告セグメントとしております。

「建設事業」は、舗装工事、土木工事及び建築工事等の施工を行っております。「製造・販売事業」は、建設用資材の製造・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益は、連結損益計算書の売上総利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は、主に製造原価に基づいております。

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社の減価償却の方法については、建物及びリース資産を除き定率法を採用しておりましたが、当連結会計年度より、定額法に変更しております。

これにより、「建設事業」のセグメント利益が11百万円、「製造・販売事業」のセグメント利益が55百万円、「その他」のセグメント利益が8百万円それぞれ増加しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額
	建設事業	製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,495	6,365	32,861		32,861		32,861
セグメント間の内部 売上高又は振替高		2,374	2,374		2,374	2,374	
計	26,495	8,739	35,235		35,235	2,374	32,861
セグメント利益	1,691	1,305	2,996		2,996		2,996
セグメント資産	11,124	5,181	16,306	2	16,308	6,440	22,749
その他の項目							
減価償却費	83	153	236		236	49	286
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	69	166	235		235	29	265

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産取引に関する事業を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去 0百万円、全社資産6,440百万円であります。全社資産の主なものは、提出会社での余資運用資金(現金預金)及び管理部門に係る資産等であります。

(2)減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用49百万円であります。

(3)有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、各報告セグメントに配分していない全社資産29百万円であります。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額
	建設事業	製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	29,021	7,381	36,402	20	36,422		36,422
セグメント間の内部 売上高又は振替高		2,460	2,460		2,460	2,460	
計	29,021	9,841	38,863	20	38,883	2,460	36,422
セグメント利益	2,135	1,320	3,455	10	3,466		3,466
セグメント資産	12,478	5,529	18,007	349	18,357	7,074	25,432
その他の項目							
減価償却費	81	118	199	8	207	49	257
減損損失	2		2		2		2
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	386	369	756	279	1,035	53	1,089

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業及び不動産取引に関する事業を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。

- (1)セグメント資産の調整額は、全社資産7,074百万円であります。全社資産の主なものは、提出会社での余資運用資金(現金預金)及び管理部門に係る資産等であります。
- (2)減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用49百万円であります。
- (3)有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、各報告セグメントに配分していない全社資産53百万円であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

売上高総額に対する割合が100分の10以上の相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント
国土交通省	4,508	建設事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	三井住友建設株式会社	東京都中央区	12,003	建設業	(被所有)直接 53.7	工事の請負	舗装工事等の請負	2,100	受取手形・完成工事未収入金等	1,097
									未成工事受入金	21

取引条件及び取引条件の決定方針等

舗装工事等の請負については、工事ごとに当社見積価格を提出し交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

(注) 取引金額は消費税等抜きの金額で、期末残高は消費税等込みの金額で表示しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	三井住友建設株式会社	東京都中央区	12,003	建設業	(被所有)直接 53.7	工事の請負	舗装工事等の請負	2,220	受取手形・完成工事未収入金等	945
									未成工事受入金	1

取引条件及び取引条件の決定方針等

舗装工事等の請負については、工事ごとに当社見積価格を提出し交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

(注) 取引金額は消費税等抜きの金額で、期末残高は消費税等込みの金額で表示しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

三井住友建設株式会社(東京証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	286.97円	317.84円
1株当たり当期純利益金額	29.53円	40.70円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	潜在株式がありませんので記載して おりません。	同左

(注) 算定上の基礎は、以下のとおりであります。

1 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度末 (平成25年3月31日)	当連結会計年度末 (平成26年3月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の 合計額 (百万円)	5,362	5,949
普通株式に係る純資産額 (百万円)	5,323	5,895
差額の主な内訳 (百万円)		
少数株主持分	39	54
普通株式の発行済株式数 (株)	18,555,000	18,555,000
普通株式の自己株式数 (株)	5,973	7,468
1株当たり純資産額の算定に用 いられた普通株式の数 (株)	18,549,027	18,547,532

2 1株当たり当期純利益金額

項目	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益 (百万円)	547	754
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	547	754
普通株式の期中平均株式数 (株)	18,549,274	18,548,423

3 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が7.82円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務	14	34		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	25	81		平成27年～ 平成31年
その他有利子負債				
計	40	116		

(注) 1 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	28	20	17	15

2 リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	5,655	13,150	22,398	36,422
税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期純損失() (百万円)	145	19	507	1,426
四半期(当期)純利益又は四半期純損失() (百万円)	97	17	262	754
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	5.26	0.92	14.13	40.70
(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	5.26	4.34	15.05	26.57

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年 3月31日)	当事業年度 (平成26年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	5,054	5,796
受取手形	1,3 2,973	1 3,294
完成工事未収入金	1 7,474	1 8,043
売掛金	1 1,435	1 1,702
有価証券	2 9	
販売用不動産	2	2
未成工事支出金	922	727
材料貯蔵品	120	132
繰延税金資産	222	172
その他	102	146
貸倒引当金	11	17
流動資産合計	18,306	20,001
固定資産		
有形固定資産		
建物	2 1,948	2 2,138
減価償却累計額	1,251	1,249
建物（純額）	696	889
構築物	2 951	2 1,049
減価償却累計額	702	705
構築物（純額）	249	344
機械及び装置	4,742	5,108
減価償却累計額	4,442	4,334
機械及び装置（純額）	300	774
車両運搬具	21	17
減価償却累計額	21	17
車両運搬具（純額）	0	0
工具器具・備品	333	348
減価償却累計額	296	300
工具器具・備品（純額）	37	48
土地	2 2,479	2 2,507
建設仮勘定		21
有形固定資産合計	3,763	4,586
無形固定資産		
借地権	22	22
ソフトウェア	115	105
その他	29	30
無形固定資産合計	167	158
投資その他の資産		
投資有価証券	2 31	2 41
関係会社株式	56	56
従業員長期貸付金	25	23
破産更生債権等	25	22
繰延税金資産	6	8
その他	152	166
貸倒引当金	46	63
投資その他の資産合計	252	255
固定資産合計	4,184	4,999
資産合計	22,490	25,001

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	3 5,774	6,521
工事未払金	5,036	5,220
買掛金	1,699	1,946
未払金	230	406
未払費用	397	460
未払法人税等	517	581
未払消費税等	256	
未成工事受入金	905	1,140
預り金	298	230
完成工事補償引当金	31	32
工事損失引当金	62	37
資産除去債務	1	
その他	48	250
流動負債合計	15,258	16,828
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	335	335
退職給付引当金	1,503	1,685
資産除去債務	72	83
その他	27	82
固定負債合計	1,938	2,186
負債合計	17,197	19,015
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,329	1,329
資本剰余金		
資本準備金	541	541
その他資本剰余金	1,000	1,000
資本剰余金合計	1,541	1,541
利益剰余金		
利益準備金	85	85
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,234	2,928
利益剰余金合計	2,319	3,014
自己株式	0	0
株主資本合計	5,190	5,884
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4	3
土地再評価差額金	97	97
評価・換算差額等合計	102	101
純資産合計	5,292	5,986
負債純資産合計	22,490	25,001

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高		
完成工事高	25,521	28,004
製品売上高	6,378	7,381
売電事業売上高		20
売上高合計	31,900	35,406
売上原価		
完成工事原価	23,963	26,014
製品売上原価	5,069	6,060
売電事業売上原価		9
売上原価合計	29,033	32,085
売上総利益		
完成工事総利益	1,557	1,989
製品売上総利益	1,309	1,320
売電事業売上総利益		10
売上総利益合計	2,867	3,321
販売費及び一般管理費		
役員報酬	58	63
従業員給料手当	948	977
退職給付費用	78	88
法定福利費	160	168
福利厚生費	30	29
修繕維持費	12	7
事務用品費	58	45
通信交通費	166	179
動力用水光熱費	7	7
調査研究費	88	86
広告宣伝費	6	6
貸倒引当金繰入額	1	25
交際費	13	17
寄付金	1	1
地代家賃	71	73
減価償却費	31	31
租税公課	40	44
保険料	15	18
雑費	64	73
販売費及び一般管理費合計	1,857	1,945
営業利益	1,009	1,375

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)
営業外収益		
受取利息	2	1
受取地代家賃	3	3
保険差益金	0	1
保険事務手数料	2	2
貸倒引当金戻入額	8	
その他	5	2
営業外収益合計	23	10
営業外費用		
支払利息	0	0
賃貸収入原価	1	1
支払保証料	10	9
その他	0	0
営業外費用合計	12	11
経常利益	1,020	1,374
特別利益		
固定資産売却益	1 6	1 2
投資有価証券清算益	2	
特別利益合計	9	2
特別損失		
固定資産除却損	2 7	2 8
減損損失		2
特別損失合計	7	11
税引前当期純利益	1,021	1,365
法人税、住民税及び事業税	531	586
法人税等調整額	41	48
法人税等合計	489	634
当期純利益	531	731

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		7,108	29.7	7,688	29.6
労務費		631	2.6	495	1.9
外注費		12,040	50.2	13,264	51.0
経費		4,182	17.5	4,567	17.5
(うち人件費)		(2,162)	(9.0)	(2,309)	(8.9)
計		23,963	100.0	26,014	100.0

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算法を採用し、実際原価を材料費、労務費、外注費及び経費の要素別に分類集計しております。

【製品売上原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		3,839	75.0	4,526	77.0
労務費		173	3.4	195	3.3
経費		1,105	21.6	1,160	19.7
(うち人件費)		(390)	(7.6)	(419)	(7.1)
当期総製造費用		5,118	100.0	5,883	100.0
当期合材運搬費		693		821	
当期製品仕入高		549		593	
付帯事業原価		645		832	
内部振替原価		1,937		2,069	
当期製品売上原価		5,069		6,060	

(注) 1 原価計算の方法は、実際原価による単純総合原価計算であります。
2 内部振替原価は、当社の請負工事の材料費に振替えた金額であります。

【売電事業売上原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
経費				9	100.0
計				9	100.0

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算法を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金合計
					繰越利益剰余金		
当期首残高	1,329	541	1,000	1,541	85	1,739	1,825
当期変動額							
剰余金の配当						37	37
当期純利益						531	531
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						494	494
当期末残高	1,329	541	1,000	1,541	85	2,234	2,319

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	0	4,695	2	97	99	4,795
当期変動額						
剰余金の配当		37				37
当期純利益		531				531
自己株式の取得	0	0				0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			2		2	2
当期変動額合計	0	494	2		2	497
当期末残高	0	5,190	4	97	102	5,292

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,329	541	1,000	1,541	85	2,234	2,319
当期変動額							
剰余金の配当						37	37
当期純利益						731	731
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						694	694
当期末残高	1,329	541	1,000	1,541	85	2,928	3,014

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	0	5,190	4	97	102	5,292
当期変動額						
剰余金の配当		37				37
当期純利益		731				731
自己株式の取得	0	0				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			0	0	0	0
当期変動額合計	0	693	0	0	0	693
当期末残高	0	5,884	3	97	101	5,986

【注記事項】

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(2) 子会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 販売用不動産

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 未成工事支出金

個別法による原価法

(3) 材料貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

(3) 工事損失引当金

当事業年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用並びに会計基準変更時差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度より費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

会計基準変更時差異は、15年による定額法により費用処理しております。

5 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗度の見積もりは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、3,952百万円であります。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用及び会計基準変更時差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

有形固定資産の減価償却方法の変更

当社の有形固定資産の減価償却の方法については、建物及びリース資産を除き定率法を採用していましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

当社は、道路建設業界の市場環境が新規建設から維持補修へと変化していることを踏まえ安定的かつ持続可能な経営基盤の確立を目指して、当事業年度を開始年度とする新たな中期経営計画を策定しました。当該計画を達成するために必須の設備投資として、主要な生産設備である合材工場等をはじめとする製造・販売事業に関わる資産の大規模な更新と増強を計画しております。当事業年度以降の製品生産数量は安定すると期待され、また、当該計画に基づく新たな設備については、急激な技術的・経済的陳腐化がないと予想されることから予定耐用年数にわたって安定的に稼働することが見込まれています。

このように、当該計画に基づく設備投資等を契機として当社の有形固定資産の減価償却方法を改めて見直した結果、耐用年数にわたり均等に費用配分を行うことが、企業活動の実態をより適切に反映できるものと判断し、定額法を採用することといたしました。

この変更により、当事業年度の売上総利益が76百万円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ78百万円増加しております。

(表示方法の変更)

損益計算書関係

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「保険差益金」及び「保険事務手数料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度から区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた8百万円は、「保険差益金」0百万円、「保険事務手数料」2百万円、「その他」5百万円として組み替えております。

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「賃貸収入原価」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当事業年度から区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた1百万円は、「賃貸収入原価」1百万円、「その他」0百万円として組み替えております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・ 財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第42条に定める事業用土地の再評価に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第54条の4に定めるたな卸資産及び工事損失引当金の注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第76条の2に定める工事損失引当金繰入額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・ 財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。

(追加情報)

確定拠出年金制度への移行

平成26年3月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度への移行を決定し「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。

本移行に伴い、マイナスの過去勤務費用が466百万円発生しており、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を費用処理(費用の減額)しております。

(貸借対照表関係)

1 このうち関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	52百万円	11百万円
完成工事未収入金	1,077	975
売掛金	10	4

2 担保資産及び担保付債務

(1) 下記の資産は、宅地建物取引業法に基づく営業保証金として担保に供しております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
有価証券	9百万円	百万円
投資有価証券		9

(2) 下記の資産は、借入金の担保に供しております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	312百万円	291百万円
構築物	97	158
土地	2,027	2,027
投資有価証券	12	11
計	2,450	2,489

(上記資産に対応する債務)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	百万円	百万円

上記資産については、期中の銀行借入取引のため担保に供しております。

なお、建物、構築物及び土地に対しては、1,010百万円を極度額とした根抵当権を設定しております。

3 事業年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	136百万円	百万円
支払手形	0	

(損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械及び装置	6百万円	2百万円
車両運搬具	0	
計	6	2

2 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物	3百万円	7百万円
構築物	0	0
機械及び装置	4	0
車両運搬具	0	
工具器具・備品	0	0
計	7	8

(有価証券関係)

前事業年度(平成25年3月31日)及び

当事業年度(平成26年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
子会社株式	56百万円	56百万円

子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	6百万円	23百万円
退職給付引当金	537	600
販売用不動産評価減	14	14
その他	357	309
繰延税金資産小計	915	947
評価性引当額	679	756
繰延税金資産合計	235	191
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2	2
資産除去債務に対応する除去費用	4	7
繰延税金負債合計	6	9
繰延税金資産の純額	228	181

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.5	1.6
住民税均等割	3.5	2.5
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正		0.9
税額控除	0.6	1.8
評価性引当額	5.0	5.6
その他	0.5	0.4
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	47.9%	46.4%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に交付され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実行税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の38.0%から35.6%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が12百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が12百万円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

資産総額の100分の1以下につき財務諸表等規則第124条により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	1,948	256	65 (0)	2,138	1,249	58	889
構築物	951	122	23	1,049	705	20	344
機械及び装置	4,742	590	225	5,108	4,334	114	774
車両運搬具	21		4	17	17	0	0
工具器具・備品	333	29	14	348	300	17	48
土地	2,479 (433)	28		2,507 (433)			2,507
建設仮勘定		21		21			21
有形固定資産計	10,478	1,048	334 (0)	11,192	6,606	212	4,586
無形固定資産							
借地権	22			22			22
ソフトウェア	166	31	6	191	86	41	105
その他	29	0		30	0	0	30
無形固定資産計	219	31	6	244	86	41	158
投資その他の資産							
長期前払費用	1		0	1	0	0	0

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

中国支店	田布施ソーラーファーム	構築物	4	百万円
		機械及び装置	270	
		工具器具・備品	4	

2 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

3 土地の当期首残高及び当期末残高の()内は内書きで、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)により行った事業用土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	58	39	4	14	80
完成工事補償引当金	31	32	31		32
工事損失引当金	62	37	42	19	37

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額11百万円及び個別債権の回収等による取崩額2百万円であります。

2 工事損失引当金の「当期減少額(その他)」は、工事損益の改善による個別設定額の戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL (http://www.smrc.co.jp/)
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。

- 1 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 2 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- 3 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第66期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) 平成25年6月27日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成25年6月27日関東財務局長に提出。

(3) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第66期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) 平成25年8月8日関東財務局長に提出。

(4) 四半期報告書及び確認書

第67期第1四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日) 平成25年8月9日関東財務局長に提出。

第67期第2四半期 (自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日) 平成25年11月12日関東財務局長に提出。

第67期第3四半期 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日) 平成26年2月13日関東財務局長に提出。

(5) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく
臨時報告書

平成25年6月28日関東財務局長に提出。

(6) 自己株券買付状況報告書

平成26年6月13日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月27日

三井住建道路株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	若松昭司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤原明

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三井住建道路株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住建道路株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、従来、有形固定資産(建物及びリース資産を除く)の減価償却方法は定率法を採用していたが、当連結会計年度より定額法に変更している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、三井住建道路株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、三井住建道路株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月27日

三井住建道路株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	若松昭司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤原明

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三井住建道路株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第67期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住建道路株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、従来、有形固定資産(建物及びリース資産を除く)の減価償却方法は定率法を採用していたが、当事業年度より定額法に変更している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。